

**下関市総合計画審議会
部会長協議 議事概要**

日 時	令和元年 8 月 1 9 日（月） 13：25～14：40
場 所	下関市役所 本庁舎新館 5 階 大会議室
出席者	下関市総合計画審議会 会長、各部会部会長および副部会長 7 名 事務局（下関市総合政策部） 7 名

【次第】

- 1 第 3 回専門部会における意見等への対応について
- 2 第 2 次下関市総合計画後期基本計画（素案）の追加修正について
- 3 第 2 次下関市総合計画前期基本計画（原案）について
 - ・各専門部会における意見の総括
 - ・後期基本計画（原案）全般に対する意見交換
- 4 答申について
- 5 今後の予定

1 第 3 回専門部会における意見等への対応について

2 第 2 次下関市総合計画後期基本計画（素案）の追加修正について

事務局

（別紙 1・別紙 2 を抜粋説明）

会長

委員の皆様方の意見をお伺いしたい。

委員

別紙 2 の No.48 について、単位自治会数は 806 であり、「約 830 の自治会」とはその他の地域コミュニティが含まれているのか。

事務局

内訳は、自治連合会に加入している自治会が 805、未加入の自治会が 26 で、合わせて約 830 の自治会としている。

委員

別紙2のNo.3について、ボートレース事業の一般会計への繰出金額の目標値が1千万円から1億5千万円とかなり増えているが、補足説明等があればお願いしたい。

事務局

前期基本計画での目標値が1千万円であったが、その実績が1千万円を大きく超えており、後期基本計画における目標値をそのまま1千万円に据え置くと違和感がある状況にあった。しかしながら、事業の性質から市にお金を多く繰り入れれば良いというわけではないという事情もあるようで、調整・検討した結果が1億5千万円である。

事務局

ナイターの開催等により平成29年度以降売り上げが大幅に増えており、今後の収入を見込んでの修正となっている。

委員

別紙2の2ページ～3ページにかけて、情報の発信も大事だが、情報の内容の充実という点を明記すべきではないか。特にくじらは、商業捕鯨に転換し、「くじらの街下関」の特性を出していかなければならないときに、船の建造の話だけでは弱い。市民を挙げてくじらの街を盛り上げていく内容の充実を入れていただきたい。

別紙2の10ページに市民活動の支援とあるが、まちづくり協議会による地域のまちづくりと、市民活動の支援の2本立てで、並列して記載されている。これらは有機的に繋がって盛り上がらなければ弱い。市民協働参画という言葉がよく言われているが、市役所が一方的に仕事をするのではなく、市民も一緒になって働くという表現が弱いように思う。市民も行政に参画してもらって動いていくという表現をもっと強めにしておく必要がある。今後発生するであろう災害に対する防災力・減災力を作っていくのも、それらの組織が有機的に繋がってこそ実現できる。そういう意味で、取り組むべき事項はほぼ網羅的に書き上げられているが、内容を如何に充実させていくかという視点が弱いと感じた。

事務局

答申の中でそのようなニュアンスで記載すると、全体に効いてくる。

委員

趣旨を市長に伝えるという意味であれば、了解した。

事務局

第8章第3節に「行政機能の充実」の「現状と課題」で、「市民の市政への参画を促進し」

と記載している。現状の課題として認識をしているがその後が弱いということなのか。

委員

知らせる内容はあるが、どう市民から引き出してくるのかという記載がほとんど無い。市民活動センターなども外部委託になっており不安はあるが、こうした組織とどのように有機的に繋がって盛り上げていくかという観点で、もう一步記載が欲しい。市民の参画といっても、パブリックコメント位しか機会がない。

事務局

「各事業の方向」に、その手段について記載はしている。

委員

世の中も環境も変わってきている中で、市民参加型の防災や環境対策などの推進を通じて協働参画を推進するなどの記載があると、防災活動や環境活動などをされている方の後押しになるのではないか。

会長

表現の問題もあるし、事務局がおっしゃったように答申で全体に掛けるというやり方もある。どちらが良いかというのは即座に回答いただくのは難しいと思うので、ご検討いただき、趣旨を汲んでいただきたい。

委員

別紙1のNo.21で、facebookの「いいね」に関する記載がある。委員は観光の方の会長さんでもあるのでお伺いしたいが、facebook社と下関市の提携によって市民へのアピールや情報発信に関して効果はあるのか？

委員

市民の皆さんに、facebookは少しずつ浸透してきている。「いいね」というよりシェアをする、その内容について自分たちを見てくれる人に伝われば広まる。「いいね」は、本当にいいねという人よりも、見たという印の代わりに付ける人が多い。それでも見ているわけだから、効果はあると思う。やはり、どんどん発信することが大事なのではないか。今も、下関市からの発信がかなり増えてきているので更に続けていただき、市の職員さんや関係する皆さんにシェアして広めていくことで、下関の情報が続いて出てくるようになり、この街は頑張ってるやっていると現れになるのではないか。facebookをみて観光客が下関に来ているということもある。

委員

今回でいうと、13日の関門花火大会について地域の方が発信することで、新たなお客さんが増える。馬関まつりについてもそういう方々が来られるかも知れない。

委員

大型クルーズ船が来るが、インターネットにお見送り隊募集が出ていた。一般には分からないが、ネットで出てくると面白そうで興味を持った。

委員

見送り隊はいまのところ募集なのか？自由に行って参加可能というわけではないのか。

事務局

港湾地区で開催するイベントなので、事前に参加者の募集をしている。

委員

見送り隊には、前もって申し込まないと入れない。港湾地区は、気楽に行ける場所ではない。今は珍しいから行くという人もいるが、将来的には2～3日に1回のペースでクルーズ船が来ることになるので、そこまで気持ちが続くかということはあるが、続けていただきたい。

委員

別紙1のNo.42～43で、子どもを保育園や子ども園に預ける方が大変多くなっている。実際に現場に行ってみると、「家で教えるようなことを保育園やこども園で教えてください」「親が出来ないから全てお任せ」という形になっている。そういうときに、危ないものは危ないとしっかり叱ることなどは、経験が豊富な方がするべき。今回、保育士の社会人採用や年齢制限について検討の余地があるとのことで、大変嬉しく思っている。親と子の会話が出来なかつたりするのを全部、保育園やこども園の保育士に任せることになるため、こうした一番基本的なところに力を入れていただいて、下関は子どもがしっかり育つ場所だ、ということを印象づけていただきたいと思っている。

委員

「優しさ・安全部会」の中で保育士の確保がかなり議論になった。北九州市では就職の際に奨学金返還を支援するなど、保育士確保を進めている。下関市でも同様に、就職の際の奨学金返還支援金という形で市内に就職する人に対する補助を始めたところであるが、企業の就職支援という枠を超え、子育てに関する保育士も対象とした体制が必要ではない

かという意見がかなり出た。保育士にはできるだけ若い人になるのが良いのだろうが、嘱託や非常勤で働いている優秀な方が年齢を重ねてベテランになってから採用試験を受けたいと思っても、年齢制限で受験出来ないということがある。教職員の世界では、年齢制限が50歳近くまで引き上げられ、中堅層も雇用して年齢バランスを取ろうという動きがある。そういう意味でも、保育士の支援をもっと考えて欲しいという意見がかなり強く出たので、部会長の皆さんにもご紹介する。

委員

下関と人口規模で同程度の兵庫県明石市では、人口が増加している。市長が子育て最優先のまちづくりをやっており、保育所の整備や保育士の確保、こども病院など子育てに関する手厚い支援をすることによって、人口が増えているというケースである。子育て施策は人口問題全体にかかる非常に大きな問題であるため、そういう視点も合わせて提言に反映するようなストーリーが描けたらと思う。

委員

明石市は私も視察をしたが、子ども専用の図書館を一般の図書館とは別に建てている。下関市は図書館の中に子ども専用のスペースはあるが、専用の図書館はない。羨ましく思った。

3 第2次下関市総合計画前期基本計画（原案）について

- ・各専門部会における意見の総括
- ・後期基本計画（原案）全般に対する意見交換

事務局

（素案から原案への主な変更点など概要を抜粋説明）

会長

それでは、それぞれの専門部会で出てきた意見の総括、共有すべき意見、あるいは全般に関する意見などがあればお伺いしたい。

委員

原案について、全体的にぼやっとしており、市としてのハッキリとした意志が見えてこないことを強く感じている。例えば、序論の策定の趣旨において、人口減少問題について触れているが、現状は減少しているので、「なるべく減らさないようにしましょう」という姿勢なのか、それとも「どんどん増やしましょう」という姿勢なのかすらも判らない。「自

然になるようにしなければならない」というイメージしか読み取れない。

教育についても、第3章第2節の「現状と課題」では、「生き抜く力」という強くたくましい言葉を使いながらも、その背景にあるのは「子どもは勝手に育つだろう」というイメージであるように感じる。昔は躰とか道徳とか倫理とか指導など、強めな言葉を使ってまっすぐな道に子どもたちを導いていこうという姿勢を持ちつつ、自主性も重んじていこうというところがあった。家庭での考え方やその家庭独自の躰など、子育てに関するアイデンティティがしっかり背骨として確立した上での自主性だと思う。しかしこの文章では、自主性を重んじるということと放任が混在しているのではないか。周りがこの子どもの個性を伸ばして、良いところだけを育てましょう。好きにして、違ったように育てられても、寛容にみんなで温かく迎えましょう、というイメージを感じてしまう。市としての意志を強調すべきである。

今の行政の立場では、強い言葉が使えないことは十分に理解できるが、市民の皆さんが読んで「希望が持てる」「将来的にこうなる」という意志が見えてこないのが寂しい気がする。強い言葉で積極性を出しても良いのではないか。

事務局

ご指摘の内容については、今後の実施計画なり事業の部分で、しっかり打ち出していきたいところではある。

委員

具体的な施策は実施計画で取り扱うため、総合計画（基本計画）では、具体的な施策は取扱いが難しいことも理解している。ただ、現状のままでは、街の方向として「下関の街はこうなるのだろうか」と頭で思い描けるようには感じられない。どちらかというところ「好きにやって」「自由にやって」「わがままを言うなら仕方ない」というイメージで捉えてしまう。「子どもたちはほったらかしても育つ、私以外の方が育ててくれれば良い」という感じを受ける。そうではなく、市全体で子どもを育てようとするのであれば、その子育てのイメージをみんなで作るようなものがあったら良いのではないか。

委員

先程の第3章第2節の「生き抜く力」という言葉について、前回までは「生きる力」であったが、自分自身がどのような境遇であっても、どのような困難にあっても「生き抜いていく」という意味でグレードアップして、強く自主的に生き抜いていける力を出そうということで修正をしていただいた。具体的な部分は今後の実施計画などで出てくると思うが、意識としてはそのような意味合いが出ているのは間違いない。例えば教育においては躰をはじめ、何でも学校ですべきという親が増えている。家庭の中で育てるものと、学校教育の中で育てるもの、社会に出て成長していくものなど、そういうそれぞれの姿勢が

ありつつも、全体を通して貫くものが欲しいというのが委員の意見の想いではないかと感じ取った。他の部分についても、アピールできる方針がそれぞれの章にあると、基本計画が力強いものになると思う。

事務局

総合計画は三層構造で、基本構想、基本計画、実施計画になっている。現在、法律的には基本構想の作成は義務づけられておらず、他の自治体では本市のような形ではなく、4～5年の短いスパンでの基本方針を出す方式を取っているところもある。次の総合計画の策定時には、そのあたりもよく考えなければならないというジレンマを感じている。

会長

今回は後期の基本計画ということにもなるので、全体のところを変えるという話にならないのかもしれないが、頂いた意見はもっともだと思うので、十分に汲み取っていただき、表現を検討いただければと思う。

委員

各章を見ていくと、今の時代の変化に対する戸惑いを感じる。従来の施策を実施しても様々な問題があり、それにどう対処すればいいのか解らない。5年前に計画を作った時点からも世の中が大きく変わっていると思う。それは、村、家、家族に依存していた地域社会が個人へと解体されていることと関係するのではないか。先程の教育の話も、家や家族という繋がりが都市化すると解体されてしまって、個の利益を中心に動いていく社会になってしまう。それで様々な問題が明らかになるが、誰がどこを背負えばいいのかという方向性が掴めていない。そういう時代に変化したことを前提としたまちづくりを行わなければならない。

明石市の場合は、子育てサークルや相互扶助のサークル、介護にしても地域単位での給食サービスなど、地域コミュニティの力を小さい単位で作りながら、小さい細胞ごとに動いていくような、市民が関わっていくバックアップのシステムを作っている。隣の神戸市で阪神淡路大震災の後、ボランティアが活動することで復興したことをヒントにしているようだ。これまでの家や家族に頼らないまちづくりのあり方を模索して、下関らしい単位をどのようなところに作ればいいのか、行政はもとより学校や市民も一緒になって考える場が、今後必要なのではないかと感じている。

事務局

まさに今からの総合計画はどうあるべきか、という問題提起であるかと。

会長

ご指摘のように、こうすればうまくいくということが見えない時代なので、計画がどのようなものが望ましいのか。今回は反映させるのは難しいとは思いますが、今後考えていく課題だと思う。

委員

これまでは、市民の側も「お役所に任せておけば良い」という感覚が強かったので、その延長線上で出てきた部分がこの基本計画に現れていると思う。それでは解決しない課題が市民の身の回りにあり、まちづくり協議会など地域が議論しているようなことが逆に基本計画に入ってくるような、課題の選定や取り組みの方向性なども必要になるのではないかと。5年先の新しい時代に向けた市と市民の取り組み方を研究するなどがあっても良いと思う。

委員

大変意欲的な話が出ているが、そうは言っても基本計画では具体的なものはなかなか出せず、抽象的なものしか出せない。具体的なものは実施計画で出して対応していけば良い。

4 答申について

事務局

(別紙3について説明)

会長

このたたき台をどのように修正していくのか、「記」より下の内容など、ご意見をいただきたい。

委員

5年前の前の答申は、割と具体的に挙げている。その方が明確に、メッセージが伝わるのではないかと。

会長

行政の立場で踏み込んだ表現は難しいと思うが、市民が関わっていけるような、例えば「参画を促す取組」「協働」などの表現を使うことについては、検討してもよいかもしれない。

委員

賑わいのところでは、インバウンドを含めたものがずいぶん多くあった。その状況変化を踏まえ、「インバウンド」を具体的な1項目として取り上げて良いのではないか。他には災害や子育て環境など、具体的なメッセージを出して市長に印象づけることも考えられる。

委員

答申なので、このままで良いのではないか。基本計画を市民に理解していただくのが一番大事であり、答申で具体的に書くことはあまり好ましくないと思っている。我々との議論を経て策定した計画を市民に理解していただくために、周知するのが行政の役割。個々の具体例や骨太の方針などは、実施計画の項目の中で強調するなどして記載していけば良い。例えば人口減少への対応については、何らかの事業をする時に実際に予算化されるので、基本計画では表現が抽象的にならざるを得ない。

会長

その他、答申について何かご意見はないか。

委員

答申としてはこのような文面にしかならないと思う。せつかく各分野の方が集まって議論を重ねてきたものなので、市民が理解しなければならない。事業を実際に予算化して実施するときに具体化すれば良い。例えば人口を増やすのであれば、実際に人口が増えている自治体の施策を参考に、取組内容を具体的に掲げて実施すべき。仮に基本計画に直接的な記載が無くても、社会の情勢などが変われば必要な事業は実施していくべきである。

委員

基本計画とは恐らくそういうことなのだろうということは解るが、全てこの中に入っているとなってくると、なかなか市民の皆さんに伝わりにくい。例えば、市民の参画、もっとも市民もいろんなことを考えて参画しようという姿勢は、「市民の理解や協力」という言葉だけでは、市民は“市民もいろんなことを考えて行政に参画しよう”というところまで想像できないが、行政の皆さんは「“理解と協力”の中に市民の行政への参画も含まれる」と言う。そこに行政と市民のズレがあるのではないかといつも思う。基本計画に対する私の思いは、最初の1ページを開けたときに「下関市はこうなるのだろうか」ということが市民の共通認識としてイメージできるものであってほしいということ。答申を見たら、「これを作ってこれをやりましたから、後はしっかりとやってください」ということで納めるのか、せつかくの機会だからプラスのイメージで、具体的なことを全部挙げる必要はないので、市民の皆さんが心躍るような表現が出来るかどうか。せつかくの答申なので、

一文入れるだけでもずいぶん違うのではないか。

委員

ほとんどの市民の皆さんにこの計画を理解していただくのは困難であるという面もあり、これぐらい皆さん方の英知が結集されていれば、相当高度な基本計画ではないかと思っ
ているほど、私は評価している。後は、どのように具体的な事業を打ち出していくかである。

会長

両方の意見があったので、検討させていただきたいが、私の今の考えは、キーワードが
ハイライトされるような表現、「これ」というものが散りばめられている表現に変えさせて
いただければと思っている。

委員

色々と申し上げたが、最終的には会長と副会長に答申案をお任せした方が良いかと思う。

会長

現時点ではお示しできないが、いただいたご意見を踏まえて、副会長と事務局で方針案
を整理し、第2回下関市総合計画審議会（全体会）でお示しできればと考えている。

5 今後の予定

事務局

（別紙4を説明）

会長

それではこれで部会長協議を終了する。

事務局

次回は10月中旬頃に第2回全体会で、原案の確認と答申の内容の確認を行う。日程に
ついては別途調整させていただく。

以上